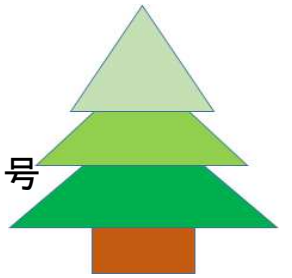




# 嵯峨宮頼り

第 27 号



嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2023 年 1 月 5 日

発行：嵯峨宮世話人会

あけまして  
おめでとう  
いざいませす



令和五年の干支は癸卯（みずのとう）、癸は甲乙丙丁・の十干の最後、卯は跳ねるに準え予想をたてる人が多い。前回の卯年（2011年）は東日本大震災が発生、一ドル七十五円の最高値を付けた大変な年だった。寅年の昨年は新型コロナウイルスが第八波を数え、ロシアがウクライナに侵攻し核という言葉迄飛び交う物騒な世界になった。円は一ドル百五十一円の安値を付け、物価高騰の波や戦費調達の増税論が罷り通るなど、多難な時代の幕開けを懸念する。今回の卯年は好い方向に跳ねてくれることを切に期待し願う。

「嵯峨宮頼り」は嵯峨宮を通じての情報を地域の皆様に提供しています。バックナンバーは首記URLのホームページから見られます。神社境内の掲示板でも見られます。御相談は世話人会迄連絡下さい。

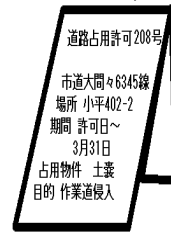
さて嵯峨宮の一年を振り返る。まず前年の埋蔵祈願式の衣装の纏めを食と歴史文化財団に報告、小平の小さな祠を調査、折の内十二山神社の建替えを林業関係者の要望で企て新殿祭を実施、世話役蘭田文男氏が死亡、岩穴観音の自然災害を見て嵯峨宮も対策を開始、伐採中の事故で赤石稻荷と「語りどる」の看板を破損、第五回埋蔵祈願式を挙行、賽銭泥棒に会い防犯対策を実施、等々。今年も頑張ります。

嵯峨宮階段脇の看板  
「細谷戸地区急傾斜地崩壊危険区域」  
嵯峨宮周辺は 区域外

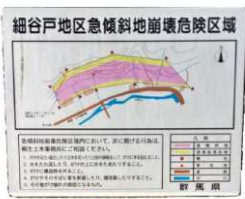
前号で「社殿が周辺樹木が成長し自然災害を受ける危険があり、対策に着手したが難航している」とお知らせした。現在重機を山へ入れて作業道を付け、伐採搬出する計画である。折の内十二山神社の建

替で協力した榊黒川森林総合サポートの小森谷浩之氏に、今度は資金がない条件で重機を用いた作業の協力をお願いし引き請けて頂いた。

次に市道から山へ重機を搬入するスロープ



建設を市へ依頼したが、今回は仮設を条件の道路占用許可のみとなった。仮設スロープは治山工事で出た廃棄予定土囊土砂の利用を森林事務所に相談し御理解頂いた。



最大の難関は神社脇に設置された「細谷戸地区急傾斜地崩壊危険区域」という土木事務所の看板である。看

板には理解し難い絵図と区域内の行為は一切相談せよというものである。立木を伐る、切土・盛土をする、崖に手を加える、水を垂れ流す・貯める、構造物を作る、家を新築増改築する等で、許可なく行えば違法である。昭和56年11月設置以来五十一年が経過している。実は埋蔵祈願を始める四年前に一度相談し「祈願書の埋蔵は問題無し、スロープは図面他を提出し審査を受ける。」だった。監視員が時々見回りに来て「ここは危険区域の看板がある処だから許可を受けて下さい。」と境内掃除の時に念を押された。今回は四年前と違い危険が迫っているので不退転の心構えで臨んだ。

（裏面へ続く）

初年（はつうま）

今年（ことし）は 二月五日



体のいい門前払いやたらい回しされぬ様県議さんに説明し口を利いて頂いた。その効あつてか市も県も丁寧に対応して頂いた。許可申請書、案内図、公図、登記情報、設計図面（平面図、断面図他）、現況（写真、説明等）・・・始めての者には書類の準備だけでも結構な労力がかかる。そして道路の登記情報がどうしても分らず土木事務所の担当者に教えて欲しいと伝える。

「道路は掛かってないと思うから看板の絵図で確認してほしい。」

「その絵図が不明確で地元に住む者には解らない、そちらで確認頂きたい。」

三十分程待つと

「やはり道路は掛かっていない、他の地番全て区域外で掛からない。該当する場所はもつとずつと手前である。だから今回の許可申請は不要、伐採も作業道も構わない。申し訳ない。」

こんな事があるのかとあまりの結末に驚いた。



「至急看板を撤去するか、解る絵図に変更頂きたい。」と伝えて終えた。誠実な対応をして頂いたからこそ分かった事で、担当者には感謝したが、間違えた規制で五十年間樹木は放置され災害を受け易い里山になってしまった事も事実だ。関係者には至急このことを伝えた。

**みどり** 願い事を書いた紙を地中に埋めて成就を願う「埋蔵祈願式」が18日、みどり市大間々町小平の嵯峨宮で開かれた。奥沢喜憲宮司を先頭に、武士や山伏の装束をまとった世話会の7人によって執り行われた。写真。

**武士や山伏姿 地中に「願い」**

嵯峨宮で埋蔵祈願祭

山田郡史によると、嵯峨宮は鎌倉時代末期の1326年、京都から逃げ延びた武士7人によって建立された。「語らざる願い地に埋め春を待つ」の台座が現存し、境内に祈願書を埋める神事がかつてあったという。

世話人会は2018年、埋蔵祈願祭を約700年ぶりに復活させた。



せ、甲冑やよういなどの装束も徐々に整えた。総代の阿久津直司さん(72)は「昨年、7人全員が装束をそろった。境内を整えたりかまた課題はあるが、神事をしっかりと継承していきたい」と話した。(和田吉浩)

たり、大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の影響で衣装直垂(ひたたれ)や太刀・歴史・文化に興味を持つ高い意識の方々が多かった。天気予報では東北北陸地方は大雪、群馬山沿いも午後から崩れるとのことだ

地権者からは伐採・作業道敷設の許諾を頂き感謝している。只条件付きもあり調整も必要で工期は三月末迄の計画である。

**第五回 埋蔵祈願式 挙行**

十二月十八日(日)実施の埋蔵祈願式も五回目という節目を迎えた。衣装も揃い式様も最低限の形が出来てきた。今回は折込紙「虹の架橋」、新聞「桐生タイムス」で予告・紹介頂いたり、大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の影響で衣装直垂(ひたたれ)や太刀・歴史・文化に興味を持つ高い意識の方々が多かった。天気予報では東北北陸地方は大雪、群馬山沿いも午後から崩れるとのことだ

気温は低い薄日が射していた。格段に腕を上げて法螺を吹く山伏を先頭に赤鎧の武者が続く。その後引立烏帽子を冠り陣太刀を握る紫の直垂の武士が、折烏帽下に太刀を下げるあでやかな若草色の、ダイダイの、草木色の、水色の、直垂姿の武士達が続く。行列は山肌を土留めしただけの急な土階段を草鞋(わらじ)で踏みしめ登る。見学の方々も気合を入れて続いて登り、落ち葉の斜面から埋蔵地を見下ろす。

祝詞奏上が始まると俄に木々が揺れ始め天気は急変した。風花が森の中へ舞込み始め、八十名の祈願書を埋蔵し口上を述べる頃には吹雪の様な横殴りとなった。一瞬七百年前、雪の中で再起を誓い合いながら当地に足を踏み入れた武士七名の不安な表情が脳裏に投影され、緊張が走った。当時もこの様だ

ったのではないか。儀式を終え山を下りる頃雪は止み日差しが戻ってきた。

祈願式を見学した方が街中の自宅に帰宅した時友人が不思議な現象を見たとして伝えてくれた。昼近く小平の一つの山の上に突然真っ黒な雲が湧き、竜巻の様にグルグルと渦巻き、間もなく消え去った、と。

埋蔵祈願の原拠となる文書(もんじょ)の一文に有る「地ヲ相シ天日為メニ黒雲覆フトコロトナルノ聖書教通ヲ蔵埋シ・・・」を、奇しくもこの時山に入った人達は体感した。そして春を楽しみに待っている。(阿直)

